

✈ 海外生活 だより

ロンドン事務所

グリニッジで見つけた オンリーワン

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐
榎本 聡 (徳島県派遣)

フットボールやラグビー、競馬、蒸気機関車(ウスターソースやバレンタインにチョコを贈る文化も?)。英国が発祥とされているものはたくさんありますが、英国は「時間」が生まれた場所(home of time)としても有名です。先日、ついに経度0(ゼロ)のグリニッジ天文台を訪れることができたので今号で紹介したいと思います。

グリニッジについて

大ロンドン市(GLA(注1))はシティ・オブ・ロンドンと32のロンドン区を所管区域に含む広域行政体を指す

のですが、グリニッジ(注2)(Greenwich)はこのうちの1つの区を差し、シティ・オブ・ロンドンの南東、テムズ川の南岸に位置しています。



▲「大ロンドン市」のエリア。中心にある「1」がシティ・オブ・ロンドン、「22」がグリニッジ区

ここには、17世紀末に海軍病院として建てられた後に海軍大学となった「旧王立海軍学校」や、19世紀に建造され、中国からイギリスまで紅茶を



▲快速帆船「カティーサーク号」は街のシンボル。水運との結びつきのシンボルとなっています



▲街の中心部はマーケットを楽しむ人でにぎわいます

輸送するために使われた快速帆船「カティーサーク号」など、当時の水運との深いつながりを想像させる観光名所がたくさんあります。グリニッジのこうした歴史的建造物群は1997年にユネスコの世界文化遺産に登録されましたが、この建造物群の中にあるのがグリニッジ天文台です。

グリニッジあれこれ

では、なぜグリニッジに天文台が設置され、その後経度0となったのでしょうか。少し調べてみることにしました。

①なぜグリニッジに天文台ができたの?

17世紀後半、船による貿易が全盛期を迎えていた当時、経度の測定によってさらに海上技術を発展させようと思案したチャールズ2世によって1675年、当時貿易港として繁栄していたグリニッジに天文台が設置されました。その後、長い年月を経てようやく経度の測定が可能になり英国の海上技術は飛躍的に発展、7つの海を支配する大国となっていったということです。

②なぜグリニッジが経度0になったの?

英国のほか各国においても海上技術が進展し貿易が活発化する中で、世界全体で時間を統一する必要が生じてきました。これに対し、1884年にアメリカのワシントンで開かれた国際会議(英国や日本を含む25か国が参加)においてグリニッジを経度の基準点とする案が示され、これに対し22か国が賛成(サント・ドミンゴ〈現ドミニカ共和国〉は反対、フランス、ブラジルは投票を棄権。フランスは1911年までこの制度を採用しなかったそうです)したこと、グリニッジは経度0となったそうです。

天文台を訪れて

よく晴れた気持ちの良い日に、天文台目指して小高い丘を登るのはとても気持ちが良いです。天文台に近づくにつれて人も増えてきて気持ちも高まります。そして坂道を登りきった目の前、とても見晴らしの良い丘の上に天文台



▲天文台へと続く坂道。毎日大勢の人が訪れているようです



▲観測室の中の様子。窓は大人3人分ほどの高さがありました

がありました。入口では、グリニッジ平均時を表す時計がお出迎えをしてくれます。

天文台の中も、訪れた人の疑問に答えられるよう、随所に説明書きがあり、有料ですが、ガイドツアーも実施されています。ガイドの方の説明によると、天文台の観測室は、望遠鏡を全方位に向けられるよう、部屋の形状を半球状にし、窓が縦長に設計されたということでした。また、観測室の屋上には大変大きな赤い球が設置されているのですが、これは経度の測定、時刻の測定が可能になった1833年に設置された「報時球 (time ball)」というものでした。球の上下によって毎日午後1時を知らせてくれるもので、今も時刻を知らせて



▲入口にある時計。グリニッジ平均時「Greenwich Mean Time」を表示しています



▲12時58分頃、頂点に達した報時球。当時、太陽が南中する正午は観測で忙しかったため、設定時刻が午後1時になったそうです

くれています (12時50分頃に報時球が動くという放送があり、55分頃から球が上昇を始め、58分頃に頂点に到達。1時ちょうどに球がストーンと元の位置に降りてきました)。

天文台の見学の後は、ずっと見たかった本初子午線へ。大勢の人が記念写真のための列を作る中、辛抱強く待ち、天文台で出会った方と交代で記念写真を撮影してきました。ここで東半球と西半球が出会っているのだと思うと嬉しくなります。ふと足元を見ると、経度の測定が可能になった後、測定された都市の名前が子午線上に刻まれてあり、「TOKYO」



▲本初子午線の記念写真に並ぶ人の列



▲本初子午線での記念写真



▲測定された東京の経度「東経139度45分」も刻まれていました

ことができました。私が記念写真を撮った後は、さらに長い行列、しかも色々な国籍の方が並んでおり、改めてグリニッジの魅力を感じました。

おわりに

なにかが生まれた場所にはその理由があり、同時に人を惹きつける魅力があるように感じました。自分の地元で想いを巡らせたとき、「ここで生まれたもの」や「ここにしかないもの」がいくつか思いつきました。皆さんのお住まいの地域にも、ほかにはない特別なものがたくさんあるのではないのでしょうか。そうした特別なものの魅力を再発見し、もっと多くの人に発信してみませんか。

(注1) Greater London Authority
(<http://www.london.gov.uk/>)

(注2) グリニッジ区ウェブサイト
(<http://www.visitgreenwich.org.uk/>)